



海の安全を願い活動する海上安全指導員

しもむら ゆたか
下村 裕 さん

PROFILE

しもむら ゆたか(下岬区・67)
主任海上安全指導員。市観光協会会長。
7月18日、海の安全に32年間貢献したとして、御前崎海上保安署で国土交通大臣表彰の伝達を受けた。

32年の長きにわたる功労

御前崎が誇る美しい海。安全なマリネレジャー活動を推進するため、市内では3人の海上安全指導員が活躍している。下村裕さんもその1人。7月18日、長年、海の安全に貢献したとして、国土交通大臣から表彰された。

「突然の表彰に驚いた。信頼されたということだと思ふ」と喜びをかみしめる。県内89人の指導員の内、同じ主任海上安全指導員は9人。32年間活動してきた下村さんは、県内でも古株だ。

活動は、海上保安署と合同パトロールをすることや、日々の生活の中で、海や船の様子を注意深く気に掛けること。過去数回、海上の船から救助を要請され、助けに行ったこともあるという。

「御前崎の海を守りたい」

昭和60年、有志で立ち上げた御前崎マリネクラブに所属したことがきっかけで指導員になったという下村さん。「御前崎の海を守りたかった」と振り返る。海上での事故のほか、当時は、無断で船を置か

れる、いたずらをされるといったこともあったそうだ。

指導員の活動はボランティア。32年間、どのような思いで続けてきたのだろうか。「海は自然なので、時には牙をむくこともある。事故がないように、嫌な思いをする人がいないようにと願って活動を続けてきた」。そして、「海で会った人や小さい子に『ありがとう』と言ってもらえたときがうれしい。けがなく、明るく帰ってもらえるのが一番だ」と話す。

伝えていきたい気持ち

下村さんは、以前視察で訪れた五島列島の海が忘れられないという。「自分たちができることはゴミ拾いぐらいです」と話す住民が朝5時頃、数人ずつ固まってゴミ拾いをしていった。観光客へのおもてなしだ。

自然がもたらす恐怖、恩恵、それらへの感謝は、後世に引き継いでいかなければならない。「自分たちの気持ちを若い人たちに伝えていきたい」。その信念から下村さんは、今後も安全で美しい御前崎の海のため、活動を続ける。